

(様式2)

2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 沼津市立第二小学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	3年生 21人 4年生 26人 5年生 23人 6年生 21人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育・総合) ② 行事名() ③ その他(委員会活動) (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	オリンピックやパラリンピックへの興味や関心を高めると共に、選手の努力に目を向け、一生懸命に取り組んで行くことの大切さを学ぶ。 スポーツの意義やよさを感じたり、パラリンピックやパラリンピアンをきっかけにインクルーシブな社会について学びを深めたりする。
5 取組内容	7月13日(火) 「フェンシングカナダ代表チーム 東京2020大会事前合宿壮行会」 6年生(総合) フェンシングカナダ代表チームとオンラインで交流を行った。沼津市の良さについて、英語を使って紹介した。また、活動の様子やカナダチームから送られた感謝状を掲示し、全校児童へ紹介した。



10月21日（木）

「法政大学 杉本龍勇教授による走力アップ教室」

3～6年生（体育）

姿勢、歩き方、走り方、練習の方法などを学年に合わせて教えていただいた。子供たちにとって自分の走り方を見直し、いいフォームで走ろうとする意識の向上が見られた。オリンピックの指導を実際に受けたことで、オリンピックや陸上競技を身近に感じることができた。



10月21日（木）

「杉本先生の夢講座 将来の職業について考えよう」

6年生（総合）

杉本先生から、オリンピックに出場するまでの努力や夢を実現するために大事なことなどをテーマに講話をして頂いた。

〈児童の感想〉

- ・夢ではなく、目標が大切だと教えてもらった。人を頼るのではなく、自分と向き合って自分から取り組むこと、強い意思が重要ということが心に残った。これから目標をもって生活しようと思った。
- ・夢を目標に変える強い決意が大切だと思った。私も夢を目標に変えるため、何が必要か、いまやっていることがどうつながっていくかを考えた方がいいなと思った。
- ・自分のことは自分でなんとかすることも大切だと思った。
- ・自分ではがんばっているつもりだったけど、やっぱりどこかで、だれかに助けを求めている自分がいると思った。大人のスタートラインに立てるように自分で考える力や行動力を身に付けていきたいと思った。



6月～11月

「オリンピック、パラリンピックって何だろう」

5年生（総合）

オリンピック、パラリンピックについて調べ学習を行い、分かったことを自分の感想と共に、新聞にまとめた。オリンピックパラリンピックの歴史やシンボルマークの意味、競技や参加国のことなどを調べながら理解を深めることができた。また、オリンピックやパラリンピックがもつ意義について話し合いを通して考

えた。

〈児童の感想〉

- ・パラリンピックがあることで、障がいがあってもがんばっている選手のことを知ることができた。差別のない社会につながると思う。
- ・オリンピックやパラリンピックはスポーツの楽しさをみんなに伝える役割があることや元気や希望を伝えてくれることが分かった。

1月24日（月）

「ボッチャを体験しよう」

5年生（総合）

パラリンピックを調べていく中で、実際に競技を体験したいという気持ちが高まり、地域に住むボッチャの指導員を講師として招き、体験を行った。障がいの有る無しにかかわらず、誰もが楽しめるボッチャの魅力を感じることができた。また、誰もが幸せに暮らすことができる社会について考えるきっかけとなった。

〈児童の感想〉

- ・障がいがある人もない人も楽しめるスポーツでいいと思った。色々な投げ方に挑戦してどれだけジャックボールに近づけるかを競い合うのが楽しかった。
- ・障がいがある人もがんばっているの、ぼくもがんばろうと思った。
- ・ボッチャは誰でもできるので、（ボッチャが広まることで）人との関わりが増えると思った。



7月

「オリパラクイズ」

体育委員会

委員会の活動として体育委員会がオリンピックパラリンピックのことを調べ、クイズを作りポスターにして掲示した。

6 主な成果

- ・走力アップ教室では、オリンピックが直接指導してくれるという期待と運動会を前にして速く走れるようになりたいという子供の気持ちが合わさり、走ることへの意欲の高まりが感じられた。
- ・ボッチャの体験を通して、競技の魅力を感じることができた。また、競技の難しさを知り、障がいを乗り越えて、競技に打ち込むパラリンピアンへの努力や情熱を感じることができた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 運動会前に走力アップ教室を行うことで、指導してもらった成果を運動会で発揮しようという子供の思いにつなげていくようにした。 • 地域の方で、パラリンピアンと交流がある方をボッチャの講師としてまねくことで、パラリンピックを身近に感じることができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本校は小規模校であるため、計画や準備を少人数で進めざるを得ず、大規模に計画しようとする则担当の負担が大きくなってしまう。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 継続している事業や市との連携が考えられる体験活動等を生かしながら、できる範囲で実施していきたいと考える。